

サクラソウ日記

自学ノート提出数累計
385冊 (255人) 11/9 現在

(自分に自信と夢を～いまをだいに、なかまとともに、一歩前進をめざして～) 校長 宮脇真一

昨年度の後期から少しずつ取組を進めてきた「体力向上」。今年度の学校経営方針の柱の一つとしてしているところです。この度、県教育委員会から「体力向上優良校」に設定され、表彰状をいただきました。6月の運動能力調査の結果を受けての表彰です。前年度後期からの取組の成果が認められました。みんなで取り組んだ結果を喜びたいと思います。



昨年度の取組の成果です
(2023/11/9 撮影)

身に付ける→忘れる→思い出す→維持する ～学び～

「機械は油をさせば、回転が上がります。人間も似たような面があり、計算の練習をすれば計算ができるようになるし、漢字の練習をすれば漢字が書けるようになる。でも、気をつけなければならないのは、やり過ぎると“学び”そのものがいやになってしまう。要は、いま、自分に何が必要でどうすれば解決できるのか“自覚する”ことです」

先日の会議で、本校の先生たちにこう話しました。校長室には、毎日数名の子どもたちが自学ノートを持ってきてくれます。1年生はプリントを持ってきますので「〇まいたっせい」と数をカウントして返します。2年生以上の児童には次の3点を状況に応じて返しています。

- 身に付けたことが、ずーっと使える、できるようにするために、今やっている復習を続けていきましょう。
- 〇月〇日に取り組んだ〇〇の内容は〇年生がよく苦労するところです。定期的に復習して改めて身に付けましょう。
- 計算や漢字は「少ない量を毎日」が上達のコツです。毎日続けられるといいね！

県教委が推進する「熊本の学び」では、子どもたちが「学ぶ意味を問うこと」を大事にしていくという理念が示されています。学んだことは時間がたてば忘れます。要は、そうならないよう自分なりに工夫しようとすること。子どもの学びを見守る私たちは、このことを自覚する必要があります。自学ノートは、子どもたちにとってその工夫ができる場です。

ある保護者の方と話しているとき「漢字は何回書かせればいいですか？」と問われました。私は、「子どもが自分で『覚えた』と自覚できるまで」と答えました。また「必要な時、その漢字が使いこなせるともっといいですよ」とも答えました。(そういう私は、パソコンを使い慣れたことで、とっさに漢字が書けなくなっています。みなさんはいかがですか?)

子どもの学びを見守る私たちも、アップデートが必要なようです。

おめでたい話 ～実りの秋～

税に関する作品 (書道の部) : 入賞おめでとうございます!

- 6年 石垣美結さん (菊池税務署長賞)
- 5年 益田紗吏さん (菊池青色申告会長賞)